

虫の声 本を反とし
窓白む

としょえもん

一学校図書館サポートだより 第2号 (通巻14号)

読書は好きですか

八王子市教育委員会 学校教育部 統括指導主事 山本 武

10月も中旬を過ぎ、ようやく秋らしい気候になってきました。秋といえば、スポーツや食欲などいろいろな事柄を思い浮かべると思いますが、「としょえもん」の巻頭言ですので、読書について触れてみたいと思います。



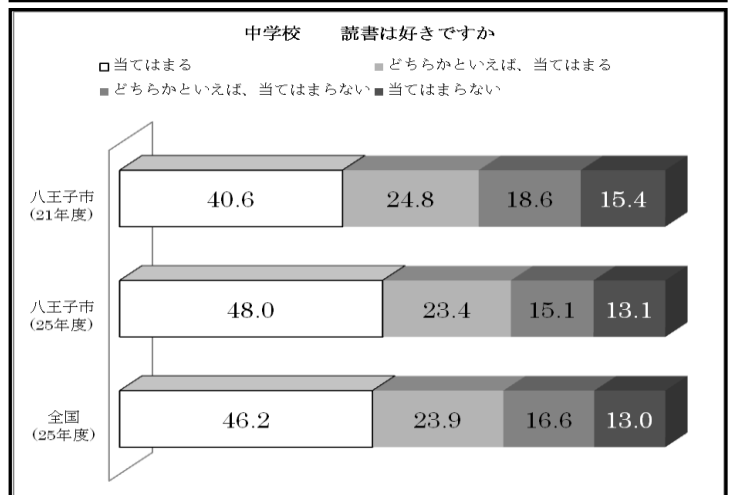
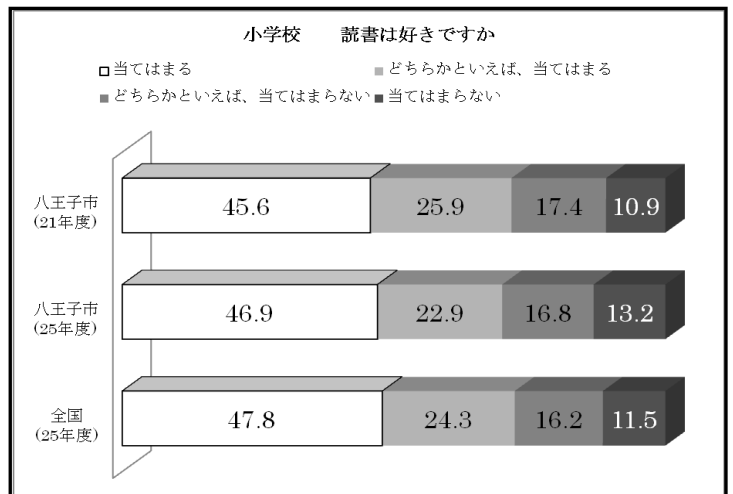
8月の下旬に本年度の全国学力・学習状況調査の結果が示されました。この調査は、国語と算数・数学の教科の学力の調査と児童(小6生)・生徒(中3生)の生活習慣や学習に関する意識の調査を実施しています。その中の1つに「読書は好きですか」という質問項目がありました。児童・生徒の結果は、右のグラフのようになっています。

「読書が好きです」と答えた平成25年度の八王子市の小学校児童の割合は、平成21年度の本市の平均値より若干下がっていますが、69.8%でした。また、「読書が好きです」と答えた平成25年度の八王子市の中学校生徒の割合は、71.4%であり、平成21年度の本市及び平成25年度の全国の平均値を上回っています。

現在、八王子市の小・中学校ではすべての学校で朝読書などの読書指導を行っています。朝読書については、「生活習慣の改善に有効だった」「学習する雰囲気をつくることができた」などの効果が報告されています。

また、保護者や地域のたくさんの方に学校図書館のボランティアに入ってもら

き、学校の読書活動を支えていただいています。読書を習慣化し、子供たちが読書に親しむ態度を育むにはよい環境ができてきていると考えます。読書は言語や知識の獲得だけでなく、心を育むためにもとても有益ですから、各学校では、読書が好きだと回答している70%の子供たちを、さらに増やすよう取り組んでいます。各ご家庭でも、子供たちが費やすテレビやゲームの時間を少し読書の時間に回していただき、学校とともに読書の世界へ子供たちを誘っていただければと考えます。



平成25年度 研修会報告

夏のパワーアップ研修会（一般教員対象）

『学校図書館を活用した調べ学習の実践』

於 中央図書館 7月25日（木）

市立小学校で使われている国語の教科書『ひろがることば 小学国語』（教育出版）を見ると、3年生で、「調べたことの中からえらんで書く」という教材があり、調査や見学・インタビューしたことを発表方法を考えながらまとめて報告することを学びます。4年生では十進分類法を学びつつ、図書館の本を使った調べ学習の基本や社会科見学や実験で調べたことの報告文の作り方を学びます。高学年や中学校、国語以外の教科でも調べ学習単元や教材が用意されています。

調べ学習の重要性に鑑み、今年も「学校図書館を活用した調べ学習の実践」をテーマに、蔵元和子先生に講師をお願いしてパワーアップ研修を行いました。全体での講義の後、グ

ループに分かれての研修では、自分が調べたい個人テーマを決定し、図書館の蔵書から資料を見つけ、必要な情報を記録カードにまとめていきます。これをもとに効果的な伝達を考え、表現方法の工夫をしながら発表作品として完成させました。一連の作業を通して学んだことは、「調べ学習の3つの柱」①課題の把握②情報の収集③まとめと伝達の方法です。調べ学習の研修は4年目となりますが、蔵元先生は今までと少し異なる部分も加えて下さり、厚みのある研修になりました。

先生方からは、「ワークショップ的な活動でとても良かった。限られた時間の中で調べたりまとめたりする活動…きっと子どもたちも苦労したり楽しんだりしているのだろうな…と思った。」「調べることの難しさ、まとめることの難しさがよく分かった。昨年に続き受講させていただいたが、新しい方法も教えていただきとても参考になった。」などの声が寄せられました。



第2回 司書教諭研修会 『事例発表と意見交換会』

9月20日（金）

初めての試みとして、小中分科会に分かれ、各2校ずつの先生方に日ごろの取り組みや実践を報告して頂き、その後はグループで意見交換をしながら交流しました。以下は実践報告の内容です。

第二小学校 武内 純子 教諭

「学校のみならずボランティアの皆さんの助けによってここまでやってこられました」という結びの言葉にすべてがこめられていたと思います。

環境整備、全体計画の作成、図書館便りの発行、配架レイアウトの変更と、短い期間にたくさんのお手助け、形を作ってきたと言います。司書教諭の「吹く笛」に、みんなが「踊って」応えたということでしょう。司書教諭の役割を十分自覚していても、なかなか成果が上がらないという声が多い中で、第二小の発表は貴重なものでした。

宇津木台小学校 河西 稚子 主任教諭

宇津木台小では、図書館活用教育が「学びの共同体」を目指すという校内研究の一環として進められているということです。その推進のために、校務分掌として「読書指導委員会」が組織され、司書教諭をはじめとして8名の教員が役割を分担して魅力的な図書館作りに取り組んでいます。読書指導の充実のために、学年別に50冊の推薦図書と読書記録をセットにした「本の記録」を作成して配ったところ、本探しに苦労する児童が格段に減ったという注目すべき報告もありました。

第三中学校 松本 澄代 主任教諭

松本先生は美術専科の司書教諭です。他の教科の先生方への声掛けに苦労されたとのことですが、学校図書館全体計画や年間指導計画、利用指導、読書指導と多彩な取り組みを紹介していただきました。特に、『日本絵本賞 読者賞』に応募し、賞品としていただいた絵本を使った図書委員による小学生への読み聞かせの活動は「とにかくやってみる」という情熱の成果でしょう。PTAの協力をはじめ、コミュニケーションを密にすることの大切さにも言及されました。

松が谷中学校 古屋 千寿子 主任教諭

松が谷中学校は、平成24～26年度「言語能力向上推進校」、24年度の学校図書館活用重点校を機に、「推薦図書リスト」の作成に取り組みました。

漫画やライトノベルだけではなく、本の世界を知ってもらいたいという願いもあり、図書委員・全教員・図書ボランティアのみなさんの共同作業でジャンルに偏りのないリストが完成しました。「リストは作っただけではだめ、課題はある」とのことですが、配布されたリストのコピーは多くの学校で活用されることでしょう。

学校図書館活用重点校紹介 ～ その2～



平成25年度重点校20校の図書館を順番に紹介していきます。

<p>みなみ野小学校</p>			<p>左：円形の図書館。丸テーブルには閲覧用のライトもついています。ボランティアさんの季節の装飾を添えて。</p> <p>右：みなみ野中の生徒が小学校図書館へ本の紹介箱を設置。小中一貫校ならではの取り組み。</p>
<p>由井第三小学校</p>			<p>左：図書委員とボランティアさんで本の汚れを落としていきます。ピカピカの表紙になりました。</p> <p>右：図書委員会活動にボランティアが合流して物語の本に背ラベルを貼り、並べ直しています。</p>
<p>高尾山学園</p>			<p>左：ブルーの書架に、絵本を整理して、見出し札を入れました。背には目印のシールを貼付。</p> <p>右：ソファーに加え、この夏、図書館には昼のコーナーが新しく加わりました。居心地のよい空間がまた一つ増えました。</p>
<p>甲ノ原中学校</p>			<p>左：文学棚を作家別に整理しました。ボランティアさん手作りの掲示物。</p> <p>右：前期図書委員が作成した、おすすめ本の紹介ポスター。それぞれの工夫が目をはきます。</p>
<p>四谷中学校</p>			<p>左：カウンターの前に生徒用の机を置いて新着本を並べていました。</p> <p>右：用務主事さんの協力ですべて新しい書架が設置されました。職場体験の生徒さんたちも一緒に展示を一工夫しました。</p>

「読書の旅へ出かけよう」学校図書館サポーターがすすめるブックリストが完成し、市内の小中学校へ夏休み前にポスターとして配布されました。八王子市のHPでも公開していますので、是非一度ご覧ください。秋の読書週間にもおすすめです。手に取った一冊の本から、新しい発見があるかもしれません。

右の写真は、8名の学校図書館サポーターが、いずみの森小中学校（第三中学校）の図書館を会場に、本の帯作りの研修をしている様子です。



本が好き！

表紙の利用は出版社の許諾済です



このコーナーでは毎回本の紹介をしています。研修会で話題になった本と学校図書館サポーター（読書推進担当）からのおすすめ本です。ぜひ読んでみてくださいね。

『おもしろくても理科』

清水義範・作/西原理恵子・え
講談社

松が谷中学校で『知のワンダーランド』に加える本として、理科の先生が薦めてくださった本だそうです。読み物に偏りがちな図書リストですが、科学系に興味のある生徒には借りられているようです。文庫本なので手軽に読みやすい本です。



学校図書館の窓から～



教科書にも紹介されている、一年生の最初の授業で読む本です。「これ なあに？」と進んでいくのですが、「やさい」のおなかなのに「みかん！」（それは果物です）などの珍答もです。「はいはい！」と元気に手を挙げてくれる子供たち。段々つられてくるのでしょうか、あてられると「何だっけ？」になる子もいたり。とても楽しい時間を共有させてもらえる本です。読み聞かせでは「心や頭が動く本」を選書基準としています。「なんだろう？」「どうしてだろう？」と「？」がわいてくる、素敵な本との出会いの機会を、これからもたくさん作っていききたいと思います。

『やさいのおなか』

きうち かつ 作・絵 福音館書店

(S：第四小・由井第一小・中山小・第三中担当)



『学研 まんがでよくわかるシリーズ』

学研ホールディングス

全国の小学校と、公共図書館に寄贈される学習まんがシリーズ。身近な疑問や、ひみつにスポットをあてて、わかりやすく解説をしています。書店では販売されていませんが、電子書籍では購入が可能です。どこの学校でも人気です。



図書館へGO！ 《ブックトーク》

■子どもと本を結びつける

一言で言えば、口頭で本を紹介すること。ポップや帯、ブックリスト、ストーリーテリングなど子どもと本を結ぶ活動は多種多様です。その中でブックトークは、聞き手に紹介された本を読んでみたいという気持ちを起こさせるだけでなく、本には様々な種類があることにも気付かせたい。何よりも紹介者自身の本に対する思い入れを通して、読書の楽しみを知らせたいものです。

■テーマとシナリオ

テーマとしてはどんなことがらでも取り上げることができます。特定の作家や時代、季節、行事などのほか戦争と平和、ペット、青春、スポーツマンシップなど、対象となる子どもの学年に合わせて選びます。読み物だけでなく知識の本も織り交ぜたい。本の紹介にトークとしての味付けをするために、ちょっとしたシナリオを作成します。聞き手の印象がまるで違ってくるでしょう。

■先生はもちろん中学生にも

国語科をはじめとして社会科や理科などの教科指導や総合的な学習の時間では、先生たちにぜひこの手法を取り入れていただきたい。この夏休みに高倉小学校でのパワーアップ研修会で、ブックトークのワークショップが企画されましたが、意義深い試みだと思います。また、複数の中学校では図書委員会生徒によるチームブックトークが取り入れられているようで、こちらも注目です。

高倉小学校 研修の様子



平成25年度第2号
11月1日発行
(通巻14号)

八王子市教育センター

学校図書館担当

連絡先 電話 042-664-1135 / FAX 042-662-2988

住所 八王子市散田町 2-37-1

教育センター e-mail: b300700@city.hachioji.tokyo.jp